

ゆる

vol. 0

interviews

02 西沢ミユキ [新聞女]

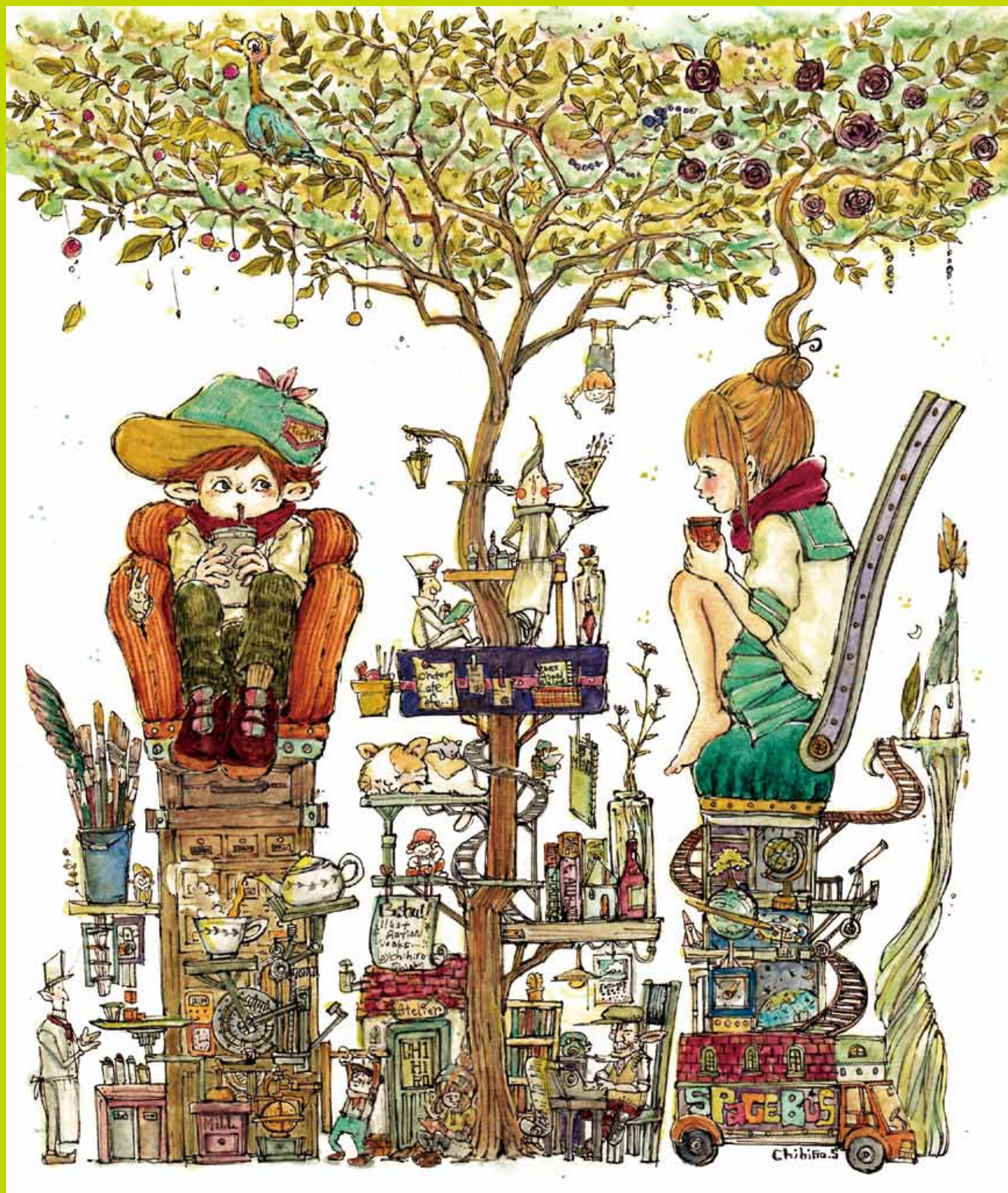
04 扇沢友樹・日下部淑世
[シェアハウス めいちゃんち]

06 北夙川不可止 [歌人]

articles / from editors

08 京都オルタナティブ探検隊
みどり君チャレンジ/編集後記/メンバー紹介

「とある」(ひと) × (ひと) ライフスタイル・メディア





西沢ミユキ

世界中の古新聞を使い即興で巨大な作品を作る現代芸術家。いつでもどこでも誰もが参加して楽しめるアートを目指し、『たけしの誰でもピカソ』では北野武氏に新聞ジャケットを作り共演したり、2006年秋には中国政府の招待で北京にて新聞パフォーマンスをするなどテレビ、雑誌、新聞などのメディアに多数出演、世界各地で活躍している。また、大阪難波では『立ち飲みギャラリー新聞女』というスペースも経営しており、ボロボロの廃墟ながら、こちらは生の文化芸術に話の花が咲く基地となっている。

社会全体の悪いところに目をむけるのではなく、それぞれの個人が生き生きとできたらいいと思う。それが『家族』に広がって、『社会』になるわけだし、自分1人1人が変わる事から始まって、社会が変わると思うから。

田中 (以下、田): 本日はよろしくお願ひします。
西沢 (以下、西): よろしくお願ひします!

『いつも自分が一番楽しくて幸せな状態にある事』かな。

●大切にしている事は?

田: 突然ですが、ミユキさんが大切にしている事って?

西: うーん。そうですね。大切にしている事は、『いつも自分が一番楽しくて幸せな状態にある

事』かな。
なぜそうか? それは、その事が皆の幸せに繋がると思うから、わたしのまわりの人が幸せになれば、それがどんどん伝染していつて。その地域が、たとえば関西が元気になれば、東京、東北、全国と広がり、最後には世界が幸せになると思うから。

田: それか、ミユキさんが言われる『一番楽しくて幸せな状態』ですか?

西: そう! いつもしあわせ。いつもしあわせ~ (笑)

田: それは意識的に『そういう状態』にしているのですか?

西: うーん。子供の時とか若い時はわからなかったのだけど、すごく自分1人では、どうしようもない不幸な状況が以前あって。でも、それが大人になって原動力になっているからかな。具体的には、父親は酒乱で暴力をふるう人で、小学生の時くらいに、外で遊ぶのではなく内向的で読書ばかりして哲学を考えている時期が私にはあったのだけど。その時に、外側ではなく、自身の内側、内側へと向かった事が今のアーティスト活動の原動力に繋がったりしていると感じているから。不幸がないと始まらない。問題がないと始まらない。

『闇』というか、それがないと人間は前に進んで行かないと思ったの。それがわかってからは不幸=むしろ幸せ? 困難大歓迎(笑)『どんどん訪れてくれ!』という感じ。



2010年1月7日「兵庫県立芸術文化センター」にて『具体×カルメン×AU』上演

むしろ、それがないと『上にあがれない』という気持ちにすらなっていますね。

田: 『我に七難八苦を与えたまえ』(山中 幸盛)みたい? (笑)

西: そうね~。自分が困るような依頼がある度に、新しい自分が出てきているので。そのたびに自分がまだまだ『私、上にいける』と思える。安定している時はむしろアクションのきっかけがないと最近思っているかな。

田: 『ハングリーさ』という言葉より『自然体な中の野心』ですよね。自分から主体的に不幸になろう! というではなく (笑)

西: そうそう! 自然に来るものを拒まずという感じ。

どんな困難も正面から来たものに対して立ち向かってきたしね。

例えば、会社員を辞めて、現代アーティストとして『新聞女』のパフォーマンスをはじめた理由の1つは本当にオカネがなくて、生活費すらあまりない中で、作品を世界中で発表しないといけなかったのだけど。その解決策として『タダ』とか『ゴミ』とかの素材を利用する事にした事からなの。昔、私が会社員としてOLをしていた時は、素材も作品を発表する度に大量に買っていたのにな。



だから、そんな事もあって、アクシデントからでも新しいものが生まれるのだと感じている。『それだけ』がもちろん『新聞女』を始めた理由の全てではないけどね。

田：たくましい人ですね。本当に。

社会全体の悪いところに目をむけるのではなく、まず、それぞれの個人が生き生きと出来たらいいと思う。

●今の社会に対して思う事

田：次の質問なのですが、とにかく『暗い』とか『閉塞感』があると言われる今の社会ですが、ミユキさんはどんな風感じていますか？

西：うーん。まるで（社会が）『他人事』みたいな人が多いなと感じますね。

自分達が『社会の一員』として『何とかしよう』ではなく傍からみて、まるでお客さんみたいに『社会が悪い』と話している若い人が多い気がする。私は専門学校生と大学生にも教えているのだけど、『サービスをうけるお客さん』。そんな心持ちで学生さん達がいる事が気になっています。そして、『人の非難はするけど、自分に対して置き換えていない人が多い』…自分に置き換えればもっと謙虚になれると思うのね。

田：じゃあ、社会『全体』に対して、やはり閉塞感とか感じますか？

西：うーん。わたしは全然そうおもわないな。一度もおもった事すらありません。

私も私の仲間のアーティスト達も全然おもっていないし。そういう面（社会に対する閉塞感）も確かにあるのかもしれないけど希望をもってガ



のか？と言え。単に『不平不満』として社会に対して出ているだけだと思う。自分にとって責任感があれば、社会に対しても簡単に文句は言えないと思うのです。自分も社会をよりよく、そんな未来を考えている人達ももっともっと増えればと思います。まずは、私自身ももっとも成功する事。それは自分の為だけではなく後輩のアーティスト達に道をつくってあげたい。突破口を開いてあげたいから。



西：それは（知名度、オカネ）両方かな。最近アーティストとしての個人の活動だけでなく、『コーディネーター』とか『ディレクター』の立場も増えてきていて、（そういった立場で）関わってもらってアーティスト達にはオカネを払って、絵を描いてほしいと思うから。

田：その為には、ミユキさん自身は『まだまだ』という意識があるのですか？

西：そりゃあ全然ありますよ。本当に全然！『まだまだ』だという意識がある。

現代アーティストとして、自分が一生活動を続けられる環境を早く作りたと思っています。田：結構、具体的話ですね。（笑）それでは、長期的に叶えたい事はありますか？

西：打ち上げるのは色々あるよ。そりゃあ『ステーブ・ジョブズ』さんみたいになりたいしね（笑）

『世界を変える』というか、別に自分の名前はなくていいけど。むしろ私は静かに暮らしたいけど。もっと良くしたいから。世界をハッピーにしたいから。

そして、その為にはまず自分に力がないと。そうすると色々な想いを自分が『動かしやすい』色々な想いを『動かせやすくなる』と思うのです。

田：僕の周囲かもしれませんが、年齢も30才を過ぎるとモチベーションが下がるといふか。なんとなく様々な物事への興味が閉じがちという空気感があるのですか？

ミユキさんのそのパワーはなんなのでしょう？

西：そうね。対かに周囲から（年齢を重ねる度に）ますます元気といわれるけど。その意識はないんだけどね。自分が普通の状態だと思っている（笑）むしろ皆がストレスを感じすぎで逆におかしいのでは？とか思います。

もし私が、仮に『元気』なのだと思えば、こうした状態になるのは簡単なので皆さんになってほしいと思うな。それは、私自身がオカネもないし、生活も職業も不安定だし、多分、一般的にはむしろ、『ないづくし』だけど、問題も実際には沢山あると思うのだけ。でも、悩みやストレスとか体調不良とかもなく夢は一杯あるから。だから、そんな（私みたいに）元気になる状態はとても簡単な事なので皆さんにそうなってほしい。

それは色々な困難があったから。余計にそう思うのです。昔はそうじゃなかった。子供の時は全然ダメ



だったし。若い時、20代も気持ちが病んでいた。バブル時代だったので、オカネは今よりむしろあったのだけ（笑）

その時は『何かやりたいのに何もなし』自分にストレスを感じて、オカネはらって豪遊していたしね。

田：それはわかりやすく『ヤサグレテ』ましたね（笑）

西：そうだね。だけど旦那が事業に失敗した時に、何もなくなったから。

その時に自分が工夫しだし、色々考えてきた事で、なにもない方がアイデア、力が湧いて来る事に気づけたのだから。不思議なものよね…最初にも話したと思うけど、だから壁は大切だと思う。それがあからこそ、力やアイデア、知恵がわいてくると思うのです。

田：やっぱり『たくましい』人です。いつも人生の、そしてアートの『先輩』として学ばせていただいております。今日は忙しい所、どうもありがとうございました。



立呑みギャラリー(新聞女) 店内展示風景



ンガン行動している人達を私は知っているの。そして私もそうありたいと思っているからかな。

田：では、社会『全体』に対して何かメッセージを投げかけるとすれば？

西：社会全体の悪いところに目をむけるのではなく、まず、それぞれの個人が生き生きと出来たらいいと思う。

それが家族に広がって、社会になるわけだし自分1人1人が変わる事から始まって、社会が変わると思うから。

それなのに、最初からサジを投げているというか、そういう人が多い様に感じていて。じゃあ。そういう人は自分がうまくいっている



●これから叶えたい事

田：最後の質問ですが、ミユキさん個人がこれから叶えたい事は？

西：まずは、私自身ももっとも成功する事。それは自分の為だけではなく後輩のアーティスト達に道をつくってあげたい。突破口を開いてあげたいから。

この前に岡山のアートイベントに参加した時に、若いアーティストの人達に囲まれて『芸術家として生きて行く為にどうしたらいいか？』と聞かれたのだけど。そうした質問に対して話をしていくなら。自分が今の100倍位成功していないとだめだと思ったの。

田：なるほど…

西：もっと自分が大成功しないと。それはまず、アーティストだけで（収入面で）豊かになる。別に以前はその事を望んでいなかったが、早くそうしないといけないとその時に思ったから。私を成功の1つの形として後輩達に道を切り開いてほしい。つまり、みんながアートだけで食べてほしいので、自分がその『モデルケース』になろうと今思っています。

もちろん、アートの『行為』そのものに関心があるし、これまでもアクシデントで色々な事をしながら仕事をしてきて。それはそれで色々な経験になったのだけど、しかし、自分の経験した事しか人に伝えられない。私は頭がわるいので『それしか』伝えられないと思っています。

田：ではミユキさんにとって『もっとも成功する』とは、知名度、それともオカネ？ですか？



聞き手…田中冬一郎
NPO「輪音プロジェクト」代表。大阪市のアートセンター「中之島」にて『伝書鳩』を担当中。

立呑みギャラリー(新聞女) TEL 090-1967-1010 <http://shinbun-onna.com/>

<p>■アドレス 大阪市浪速区元町1-2-2 波芳ビル1F</p> <p>■アクセス 地下鉄四つ橋線難波駅 30番出口徒歩0.5分 エスカレーターを上がって東に進んでゴルフマップの隣にあります。</p>	<p>■営業時間 19:00 - 23:30 定休日/日曜日 月曜日が祝日のときは、月曜日が休日で日曜日は営業。</p> <p>■貸しギャラリー 立呑みギャラリー新聞女では、壁面前面を、貸しギャラリーとして提供しております。</p> <p>マスターの連絡先はこちら。 090-9617-1919</p>
---	---

Stay foolish(バカであり続ける)。
起業はリスクが高すぎて普通はやらない。

加畑(以下、加):『株式会社めい(以下、めい)』
が大切にしている事は何ですか?

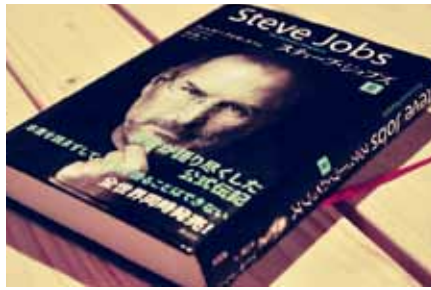
日下部(以下、日):大切にしている事なあ…『妥協しない事』。

宮川(以下、宮):かっこいいー!

扇沢(以下、扇):妥協っていうか、『出来る
と信じ込む』というか。自分に能力無いんは
分かってんねんけど、催眠術をかけるように
「出来る!やる!出来る!やる!出来る!や
るー!!」みたいな(笑)考えたら何も出来な
いっすもん。「そりゃ無理やわ、お金的に」とか、
「物理的に」とか。

日:じゃあ「なんで無理なん?」とか考えてな
あ、やっていったら叶うっていうか。

扇:ジョブズの言葉が頭に浮かんだけどね。



日:『Stay foolish』?

扇:だって、起業ってリスク高すぎて普通や
らないっしょ(笑)

日:まあアホやと思うよ(笑)

皆やりたい事をやれば良い。
価値観はお金だけじゃない。

加:『めい』がこれから叶えたい事は何ですか?

日:『仲間を増やす事』かな。

扇:ホームページの投資家さんの所にも書いて
あるけれど、最初は『広げていく』、次に『恩
返しをしていく』。最後に、『今見えていない
何か大切なものを見つける』っていう。『哲学』
であるとか『家族』であるとか、『新しい僕た
ちの仲間』であるとか、それが何かはまだ分か
らないっていう感じで(笑)

日:分からないのは友樹じゃないの?(笑)

扇:なんか分かってんの?『これを見つけたら
ゴールだ』、みたいな。

日:その…なんて言ったら良いんやろな。哲
学的な話で、『いっぱいの人に葬式来てもら
う事』みたいなのがゴールかもしれん(笑)

扇:なるほどね、なるほどね(笑)

日:そうそう(笑)私は『人生』と『めい』
を被せてるからそうやとは思。

扇:まあまあ、そうか。僕は『広げる、
恩返しする、何か見つける』。叶えたい事は…。

日:『めい』のプランっていうんは私が考えたも
のなんやな。だから全て思い通りのものになっ
ているから、それはもうそのものやねんか!何



かじゃなくて、大切なものを今叶えてんねん。
友樹は『友樹のものを見つける』やし、私は『今
やっている事を続ける』っていう事が叶えたい
事や。

扇:なるほど!理解した。こんだけ価値観とか、
考えてる事が違っても同じ事を幹にして出来
るっていうのが何か凄く不思議な事やと思う。
傍から見たらちょっと被さっているけど、僕ら
は完全にメインやから、日常の。

日:メインっていうかこれしかないもん!

扇:これしか…うん、これしかない!

日:これしかないもん!(笑)

扇:これしかないもん!(笑)

宮:行き着いたのが凄いですよね、これしか
ないっていうものに。これしかないっていうも
に出会えるって凄く事だと思うので、生きてい
る中で。凄くハッピーな事だ。

扇:いつもこんな話してるもんね。『シェア
ハウス』であったり『家族』であったり、『哲学』
であったり。

日:ほんまになんか、生きる事と働く事がも
う一緒になって。人によってはそれをしんど
いって言うけど、私自身はせっかく働かなあか
んのやったら、楽じゃなくても楽しい事をやり



続けたい。それでもお金は稼がなあかんのやっ
ていうのであれば、いきたい方向と重なるやり
方の中にだってお金を稼げる方法もあるんじや
ないかなって思う。

宮:私も生活する事と働く事、自分のやる事
のベクトルを揃えたいなと思ってるところで。
その今、転換期を迎えていて…だけどお金
は無い。自分の生活を成り立たせていけな
いけど、やっぱり自分らしく生きてい
きたくないって言う中で、これからどう
生きていって言うのを凄く考えているので、
お話がリンクするっていうか。ベクトルを揃
える方が心地良く生きていけそう。

扇:ほんとそう!ほんとそれはそう!

日:私もそう思う!



扇沢友樹
Tomoki Ougisawa

株式会社めい 代表取締役
「めいちゃんち」はボケ及びハード(箱)面
経営・経理・営業を担当。
経済、特に中古・不動産の知識が豊富。
人生のテーマは「京都に貢献する事」
「住環境に関わることで沢山の人の素敵な人生をサ
ポートする事」という。
行動力とチャレンジ精神溢れる京都人。
ohgisawa.yzn@gmail.com

めいちゃんち

株式会社めいの2人により運営されている職住一体型のシェアハウス。
シェアハウスという箱(ハード面)を用意するだけでなく
住人(ソフト面)とのマッチングにも積極的に取り組むことで
職住一体型のシェアハウスを創り出している。

目指すのは「相乗効果を生み出す出会いの場をつくる」こと。
大徳寺前から徒歩2分の2階建ての町屋が「めいちゃんち」。
イベントスペースともなる、開放感ある畳の間の1階と
住居部分の2階から成る。

一階ではイベントの他、「めいちゃんちの寺子屋」も開催。
(住人らが先生となり書道教室やPCのプログラミング講座なども行われている)
住人内ではめいちゃんちが組まれ新しい仕事の形が生み出され、
また、地域の人の集いの場ともなっている。



扇：ほんとに今仰った通りで、平日は仕事があって、土日は仕事を忘れるためにめっちゃ遊ぶとか。誰かが駄目って言ったわけじゃないけどそのオン、オフの切り替えとか言うけれど、今まで何かを成し遂げた人ってそんなんじゃないですか？それって、まあ変な事言うレジャー産業のプロパガンダじゃないですけど、その部分もあるかなと思って。なんか色んなものに操られてるんじゃないかなって、それをちょっと考えている事が大切な。仕事にある定義であるとか、価値観であったりとか。お金に対する価値観であったりとか。今の経済を疑ってみるとか。そんなん大切やなって日々思うかな。

宮：なるほど～。

日：皆やりたい事やったら良いと思うで。それがお金稼ぎやったらそれで良いと思うし、大手企業に勤めるんでも良い。

扇：うん、そうそう。それで良いねん。サラリーマンになりたかったら良かったら良い。

日：そうそう。ただ何か、ブツブツ言うんやったら変えろとは思。有言実行、不言実行していかなとね！価値観ってお金だけじゃ

人でいっぱいやし。

扇：別に……うん、社会はもう満足でしょう(笑) 社会というのが今の僕の環境か、日本の環境かは分からないけれど満足なもんだと。日本では飢え死にはほぼ無いし、別に何も病む事は無いと思う。まあ今日は自分でいっぱいいいやし、社会がどうのとか偉そうな事は言ってもらえないけど、みんな自分の人生は素敵なものだと思ってる。まあ今日は自分でいっぱいいいやし、社会がどうのとか偉そうな事は言ってもらえないけど、みんな自分の人生は素敵なものだと思ってる。

日：何かどの時代も、私はほんま気の持ちようやと思ってるから。ほんま哲学好きやからやけど、社会っていうよりも、社会の中でそれぞれの人の考え方が不幸になっているのであれば、「それを変えなあかん～」とは思ってる。統計的なものは分らんけど、確かに「自分が不幸や」って思っている人は増えてるんじゃないかなとは思。身近にそういう不幸思考の人が多かったからこんな私になったし。

宮：確かに～。

扇：俺らが恵まれてるのが『人に会えた事』とか、『熱中出来る事に会えた事』とか。出会えへん人はいっぱい居ると思うねんけど、なんやろ。ほんま哲学的な事になるから……



日下部 淑世

Toshiyo Kusakabe

株式会社めい 取締役
「めいちゃんち」のツッコミ及びソフト（コンテンツ）面・IT・企画・管理業務を担当。
学生時代は様々なアート支援活動に取り組み、また日々の多くの時間を人とシェアして過ごしてきた。
学問、特に哲学や芸術、先端技術に関心がある。
ビジネスセンス溢れ、知識の吸収力と応用力に富む女性。
tsutchiroru@gmail.com

としよさんとシャブ男

みたいな感じが……あんまり公に言ったらあかんのやろうけど。うん……なんか多分『歪』が出てきていると思います。それは価値観であったり概念であったり、社会の常識だと思われているものであったり。何か無理が生じていて、

じゃ無いから。自分がやりたい事としてやるし、社会は皆が「今の社会じゃ駄目だ！」って言うてるからこそ上手くいくと思ってるから喜ばしいよ。

扇：不動産も街づくりも多分、「未来に向かっ

今や過去の時代に不満は無い。 その歴史にずっとわくわくしている。 なによりも未来に期待している。 だからこそ、『めい』は素敵だと思う未来に 加担していく。



どこを見るんだろう……



インタビューの2人。写真左:moni・右:加畑

ないから。時間が結局、最終的なものだと私は思うから、『かけがえのないもの』を大事にしていこうかなみたいな。お金無いと困る事もあるけど、ワークエクスチェンジとか将来的にやっていきたい。何かしてもらったから何かしてあげるだとか、別にお金じゃなくても良いじゃないですか。まあ、社会はそうなるかは分らんけど、自分はそれで生きていけると思うから。

宮：ほんとそう思う！

価値観や社会の常識など、何らかの無理が生じていてその皺寄せが来ている。

加：今の社会に向けて思う事はありますか？

日：日本社会自体は良くなってきてるんじゃないでしょうか。世の中を良くしたいという

ちょっと控えとこう(笑)

加：いやいやいやいや(笑)聞きたい聞きたい！

日：どのフェーズまでを考慮するのか、だよ(笑)

扇：そうやねん！そうやねん！そうやねん！！(笑)

日：一番単純に言えば、「恵まれてんじゃないの～？」とかねんけど。でもそれは、自分の中で複数の自分がいっぱい居るやんか？「恵まれてんじゃないの～？」って言ったら、「それは日本の一部だけだよお～」とか「それって、恵まれてるって何？」みたいな(笑)

扇：そうそうそう！そういう事！そういう事！！(笑)

日：「精神的なもの？金銭的なもの？でもそれって精神的なものはちょっと問題あるんじゃないの？」とか自分の中であって。まとめていくと、今の社会は『本当は気の持ちよう次第やのに自分が不幸じゃないか』って思われやすい社会ですよ。自分たちは、『実は気の持ちようですよ』って伝えたいし、『気の持ちようはもうちょっと気楽でいいんじゃないの』っていうのを自分自身にも言い聞かせながら、人にも伝えていきたいかな？

扇：難しいなあ～(笑)

加：ホームページに載っていた、『孤立化』というキーワードではどうですか？

扇：事実としては存在してる。おばあちゃんが一人で死んでいって3ヶ月見つかからへんっていう現状があるらしくて。「いや～、今日もか。」

その皺寄せが来ている。それにちょっとずつ僕らも気付いてんけど、みんなもちょっとずつ考え直した方が良いと思うところは自覚して。それが全員が全員は無理やから、まあ一部からそうやって声に出して「これちょっとおかしいんじゃないか？」って言うていこう、っていうのが『めい』の動きにはあるのかな。それを実践してある程度形にして、さっき言った皺寄せの原因を探ったら『めい』がやろうとしている事が形付けられて証明出来るかもしれない。



日：何かそれって昔はあった事やけど、特にそれがこう表面化してきたのは今や私は思ってる。例えば震災がこの間起きたからこそ、そういう事に皆が気付いて皆が「繋がりが繋がり」って言って、正直私たちは仕事がやりにくいけど。

扇：そうそう！
日：だって皆やってるんやったら存在意義無いし。やけど、アンチヒーローになりたいわけ



ハロウィンパーティの準備中～！



みんなで記念撮影 (in ハロウィンパーティ)



シェアハウス 〈めいちゃんち〉

〒603-8222
京都府京都市北区紫野山町55-2
月/12:00～22:00
水/12:00～22:00
金/12:00～22:00
日/10:00～17:00

(来年2月に引越しの予定)
めいちゃんちが来年2月に引越すことになりました。来年2月以降の住所はHPを、開店時間は変わる可能性がありますので下記へお問い合わせをお願いいたします。
<http://mayshare.web.fc2.com>
sharekyoto@gmail.com

北夙川不可止

歌人、コラムニスト、ライター、ゲイ、アートディレクター、バロック音楽、歴史的建築ひいては都市……北夙川不可止、通称「伯爵」には数々の顔がある。彼と話していると、彼の内にあるその様々なものが矛盾しながら共存しているのに驚かされる。何かの言葉で彼を定義する度に、その定義を揺さぶりながらそこからすりりと抜け出してしまふ、そんな博識で人間味溢れた彼の世界を、少しでも味わってほしい。

常にマイノリティの意識をもつこと。そして、その違いひとつひとつを大切にしていける社会になればいいと思う、単純だけど。

「世の中は『変なもの』と『美』で満ち満ちています。だから街を歩くことはすごく素敵」

●関西弁の乱れ

伯爵（以下、伯）：僕は日本人としてはわりと左翼だけど、関西人としては超パトリオットなのよ。地方地方のローカルカルチャー、リージョナル性というか、それがどんどん塗り潰されていく「グローバリゼーション」ってどうやって思うわけ。

浦田（以下、浦）：うんうん。

伯：僕は旅行が好きでね。鉄道で旅すると、日本のどこの県庁所在地で降りても同じような駅ビルが建って、「スタバ」だの「マクド」だの同じようなテナントが入っている。そして駅前商店街は同じようにシャッター通りになっていて。車で旅するとね、日本の大抵の主要都市では、幹線国道は中心部を通らないで郊外のバイパスで抜けるやんか。そういうところ走っていると、どこでもみんなやっぱり同じように殺風景で、同じようなプレハブの建物で、「ガスト」だの「洋服の青山」だの同じようなチェーン店ばかり並んで。こんな日本に誰がしたって話よね。

浦：それを思うと神戸は結構特色出てる街やなと思いますね。（※インタビューは神戸の喫茶店「ムジカ」で行われた。）

伯：まだね、神戸はね。そやけど、言葉はあらゆる文化の土台やと思うけど、既に関西語は風前の灯やね。「地方」という言葉を地方という意味で使うのはあまり好きやないねんけど、首都圏以外の土地という意味で使うと、(方言にコンプレックスを持つという「田舎者根性」自体よくないと思うけど)とにかくコンプレックスで方言を隠そうとして標準語なり東京弁なり真似するなら、まだ根っこはあるやん。そやけど我々関西人は関西弁をあんまり方言やと思てないし、コンプレックスがない。パリに行こうが冥王星に行こうが関西弁で通す。その関西人が関西弁しゃべってるつもりやけど、もうどんどん関西弁というのがなくなっていくのね。これはだからもう関西文化が相当土台から腐ってきてるなあと。

浦：そうなんですか。

伯：僕は京都大阪神戸の方言の使い分けができねんけど、もうその違いがなくなりつつあって、関西共通語になりつつある。そして関西語独自の単語が標準語に置き換わっている。例えばコンビニに行くとか豚まんやなくて肉まんになってたりね。焼き肉屋に行ったら「七

輪」が出てきたりする行けど、あれかて関西弁で言うたら「かんてき」や。風呂屋が銭湯になってしまたりね。

浦：私も京都来てびっくりしたのが、京都って銭湯のこと「温泉」で言うんですよ。

伯：銭湯はあくまでも関東方言。法律用語では普通公衆浴場で、関西ではお風呂屋さんやね。そして屋号は「○○温泉」が多い。全国的には「○○湯」やけどね。お風呂屋さんのこと銭湯やなんて言われたらいきなり江戸っ子が出てきそうやん、ここ上方どっせ、て。なんでそないな東言葉遣はるんだとか、とお育ちがしのばれまっせ。

浦：(笑)

伯：今度京都で「銭湯なんとか」ってイベントがあるらしいやけど、そんなに言葉に対して鈍感で無神経な人間が地方の文化語る資格ないと思うね。で、一番顕著なのが僕が大嫌いな言葉、「すげえ」ね。

浦：すげえ？言います？

伯：「すげえ」や、関西弁で言うたら。「すげえ」「やりてえ」「食いてえ」。東日本でも下品とされる言葉使いがものすごい関西に入ってきてる。「ありえねえ」とかさ。「ありえん」か「ありえへん」や。もうハリセン持ってきて後頭部思いっきりどつてこの非国民！で怒鳴りつけ

たくなる。左翼の僕に非国民言われてどないすんねやていう。

浦：(笑)やっぱり関西と関東は精神的にどうか、違うもの、という感覚が伯爵にとってあるんですか。

伯：そりゃパーソナルな問題も地域性的な問題もあるけど、概ね権威主義におもねらないのが関西でしょ。

浦：権威主義とは？

伯：代表的なのが大手私鉄の線路幅。関東の大手私鉄はほとんど1067ミリゲージで、JRと同じ。関西は阪神も阪急も京阪も1435ミリゲージで広いよ。だから官営鉄道と線路繋げてどうしようかというのをはなから考えてない。これが関西やね。

浦：なるほど。そういうのもあって伯爵は古い文化財を遺すという活動をしてらっしゃるのですね。(伯爵は神戸居留地の明治・大正・昭和のレトロ建築を遺す活動から始まって、各地の文化財保存、地域振興活動をしてらっしゃいました。)

伯：そうやね、僕の中では全部繋がってることなんよ。

●今大切にしていることは何ですか？

伯：親が年とってきたから親は大切にしたいと思うね、ありきたりやけど。

浦：うんうん。こういう態度は大事にしようとかはありますか？

伯：意外とないのよ。

浦：意外とないって意外と面白いですね。

伯：僕は馬鹿でないので論理的な思考はできませんけど、学者にならないでアーティストになったから感覚人間ではあるのよ。論理は別に後から理屈つける部分が僕には多いんで。僕は割と嫌な人間なんですよ(笑)すごく上から目線やしね。ただ、僕は大金持ちやないけど一応阪神間の「細雪」の世界で、教養のある家庭で育った。まあ父もそこそこ社会的地位のある人だし。だからもしこれでマイノリティじゃなかったらすごく嫌なマジョリティになってたと思う。

浦：バランスが……

伯：そういうこと。常に弱者の立場でね、それもそうしないといけなくて義務感ではなくて、自然にそっちの立場で考えることができるのは、自分の中のゲイだというセクシュアリティがもたらしている要素やろね。

浦：やっぱりそこが結構大きいんですか。

伯：両親が馬鹿で下品で無教養なわけではなかったからね。子どものときはね、そら嫌やっただけで、そういう両親だと、世間から勉強できて当たり前やと思われるから。でも今となってはカミングアウトは平気でできたしね、恵まれた環境やったなあとは思いますが。「お前は長男やからちゃんと跡継ぎのことを考えてるのか」とか「孫の顔が見たいわあ」とかやたらたらまらんもんな。

浦：カミングアウトのときは？

伯：「ああそう」で済ましてくれたわ。「だから、で？」って感じ。

●今後叶えたいことは？

伯：僕自身結婚願望はたとえノンケだとしてもなかったと思うけど、一応夫婦別姓制度と同性婚姻は実現させたいね。

浦：結婚制度自体には賛成なんですか？

伯：選択肢は異性愛者と同等のものを準備してほしいなど。僕自身が結婚するかどうかは別として。ホモソーシャルに対する批判とか、ポリ



ガミーかモノガミーか、いろんな話になってく
るけど。

浦：今の状況だとまったく選択肢ないですもんね。

伯：もうやめたけど、ゲイなのにmixiでは夫
婦別姓コミュの管理人をしてたしね。

浦：夫婦別姓はなぜ？

伯：男性性社会は打破しなきゃならない、と
思ってる。実は僕の本名はAだけど、A姓は家
族で僕だけなの。家族は皆Y姓。母方の姓を
僕だけ継がされたから。だから家制度なんてナ
ンセンスやと思ってるし、両親もそうなのよ。

浦：それはなぜ……

伯：だから母の両親、つまり僕の母方の祖父
母の養子ってことになってるの。父はY家の分
家の末っ子だけど、母はA本家の総領嬢や。
旧民法風と言うと、父が婿養子に来れば早かつ
たんやけど、そうならなかったから、長男はA
姓を継がせる、と。だからわたくしはローマ字
でサインするときはA-Yです。ハプスブルグ＝
ロートリンゲンのごさいます（笑）イニ
シャルも3文字。

浦：おお、皇族同士の結婚ですね。

伯：今のスペイン国王ファン・カルロス1世は
名字がブルボン＝イ＝ブルボン。

浦：ブルボン＝イ＝ブルボン！その語呂がす
てき！（脱線）



聞き手…浦田千紘

●今の社会に対して思うこと

伯：今の日本は1933年のドイツそっくりにな
りつつあると思う。第1次世界大戦の最中ド
イツで革命が起こってホーエンツォレルン家
の帝政が崩壊したでしょ。皇帝はヴィルヘルム2
世。革命後のドイツというのは、20世紀前半
の世界の中で最もリベラルな憲法、ヴァイマ
ール憲法を持って、相当程度自由で公平な社会
を達成したはずなのに、1933年にはそのヴァ
イマール体制において、自由で平等な選挙を
通じて、ヒトラーを独裁者にしてしまった。彼
は非法的な暴力的な手段で権力を奪取したの
ではない。

浦：極めて民主的な方法で。

伯：第一次大戦後賠償させられてドイツは
経済的に非常に痛めつけられた。特にルール
地方が占領されハイパーインフレが起こり、
札束抱えて買い物に行かなくなかんようなこ
とになって。そうなる大衆・労働者階級は疲弊
する。そこで労働者階級が革命に目覚めれば
よかったのに、そうなのはインテリ層で、
日本で言うところの下流層やB層なんかはレイ
シズムに走りユダヤ人を排斥し、強い指導者
を求めてヒトラーに熱狂した。今の日本の嫌韓
・嫌中、強いリーダーシップへの希求、中身の
ないワンフレーズポリティクスに通じるころ
があるよね。極めて危険な兆候な気がする。

浦：踊らされてますよね、全体的に。

伯：ものすごい格差社会になってきてるやん。
僕は戦後の日本、一番いいところは階級のな
い社会を達成したところだと思うね。よく言
われるように、日本は世界で最も成功した社
会主義国だと。半ば皮肉なんだけどその通り。
浦：階級がないって皆が思い込んでる雰囲気
ですよ。

伯：実際階級はないよ、階層はあっても。だ
から高卒のヤンキーがVIP車に乗って、茶髪
のねーちゃんがヴィトン持って「あたしセレブ
〜」て言える国なんやから、それはいいことや

と思うねん、馬鹿馬鹿しいけど。ところが最
近は出自によってかなり将来が限定されるぐ
らいた、格差が広がりつつあるやろ。ところが
それこそ生活保護ぎりぎりの非正規労働者
に限って、生活保護受けてる人間をウジ虫や
というような言い方する。お前自分が転落寸
前やとわかってへんやろ、と。それでそのブル
ジョワしか優遇しない新自由主義政策を唱え
る政党や指導者がもてはやされて。本当にも
う戦間期のドイツ・イタリアとそっくりですよ。
僕は政治家でも哲学者でもないアーティストや
し、あまり偉そうなこと言う性分でもないけど、
でも自由と民主主義というものを真剣に考え
なえらいことなるぞ、とは思ってる。自分が
マイノリティやから余計そう思う。

浦：少し違うかもしれませんが、最近のファ
ッション見てると、みんな一緒の方を向いてる
気がします。

●マイノリティという意識

伯：マイノリティに関して、フォビア(嫌悪主義)
が欧米はひどい。日本ではなんとなくゲイ差別
はないような感じやけど、やっぱりものすごく
あってね。僕が小学校のときでも、オネエっ
ぽい子はオカマと呼ばれいじめられたり。異質
なものを排除するものすごい陰湿な構造があ
ると思うよね。最近の色々なファッションを
見ているのは、「〇〇系」とかってどんどんカテ
ゴライズしていくのは、自分そこに所属してい
るということで、アイデンティティが確保でき
る、安心できる、除け者じゃないと思える、
そういう心性があるんじゃないかしら、社会心
理学の話になってくるけど。僕みたいにみんな
と同じことをするのが子供のときから大っ嫌
いだと、ものすごく生きにくいよね。こうして
アーティストになったからよかったものの、サ
ラリーマンなんてとてもやないけどやっとな
ね。

浦：伯爵にサラリーマンは無理でしょう。
伯：ええ。逆にどんな格好しててもいい職業
やから僕は絶対スーツ着るんやけどね。

浦：ああ、そういえば。
伯：アーティストっぽい格好するのが嫌いでね。
浦：天の邪鬼ですね。

伯：とことん。だから僕ゲイの中でもマイノ
リティやしね。ゲイのマジORITYはスポーツ
マンやし。そういえば、ゲイの中でも流行があ
るんよね、面白いことに。自分の好みまで流
行に合わせて変えるのは理解できないけど。自
分の好みやない子見てもセクシーやと思わ
へんからね。下品なおばはんは踏まれたい
言う友達もおるけど（笑）

浦：それはまたマイノリティな……

伯：近所のビデオ屋の女王様コーナーひとり
で全部見た言うてたからね。

浦：生粋のMですね。

伯：まあナンセンスやけど、世の中SかM
かで分けるとしたらMの方が圧倒的に多い
と思うけど。

浦：そうですかね、やっぱり。

伯：人間って屈折した生き物やからねえ。

浦：その屈折が面白いっちゃ面白いんです
けど。

伯：べったべたであんまり好きじゃないけど、
金子みすずの詩「みんな違って、みんないい」
って思っちゃうわけですよ。

浦：だって人間だもの。

伯：「二番じゃだめなんですか?」、って言
われるとみんな怒るくせにさ、「一番でなくて
もいいじゃないか」、って言われると有り難
がって便所に貼るのよね。

浦：便所貼られる率かなり高いですよ。

伯：そういえば、この前群馬県の中之条ピ
エナーレに行ってきた、素晴らしいイベント
だったんだけど、でもあまりにひどい言葉の
作品があっただけ。もうこれはポップスの
歌詞ですか、というぐらいのが現代アート
として展示されてたね。僕ら詩の世界に
いる人間からしたら、あまりにレベルが
低い。現代アートの世界で、アートとして
提示される日本語というのはものすごく
質が低い。アートアートと言いつつ、



北夙川不可止

Hukashi Kitashukigawa

歌人／コラムニスト
(近代建築、古楽、阪神間文化、セク
シュアルマイノリティ)
「路地裏を睥睨しつつ歩む猫呼ばゆる
りと吾を見返る」
twitter : @comteFQ

結局「現代アート村」の住人で満足してしま
っているのよね。言葉で勝負する気だったら、も
っと詩の世界にまいよ、って思うよね。詩人
に見せたら批判される以前で「素人さんね」で
終わってしまうようなもの。神戸ピエナーレ
にもあったけど。

浦：言葉を言葉として扱っていない場合があ
りますよね。

伯：そうですね。僕は「詞」と「詩」は分
けたい。「詞」は歌詞だとかの「詞」、アート
としては「詩」。そっちの域に達してないもの
が現代アートにはいっぱい混じってる。僕は詩
人であり、またアートイベントディレクターを
している身としてはその辺をもうちょっと言
いたいね。

浦：なぜ伯爵は短歌に？

●伯爵と短歌

伯：冤罪で獄中にいたとき、なんかしてん
と気狂うなどと思って始めたら有名になっ
て、みたいな。やけど、僕ようしゃべるでし
よ。

浦：はい。

伯：こんだけしゃべって常に言語で自己表
現、自己実現できてる人間に詩は必要ないん
です、本来。

浦：あら。

伯：だってさらに言葉で表現したいって
いう欲求がないじゃない。文章は書くけど。
散文は書くけど韻文には行かへんよ、普通
ね、こういう人間は。作詞家にはなれるかも
しれんけど。その人間が無実の罪で閉じ込め
られて誰とも話をしないでそれを何年も、
ってなると何かせんと気狂うなって、短歌
が出てきたん。

浦：なるほど。でも今でも短歌は作り
続けているんですよ。

伯：もちろん。一旦歯車が噛み合い出す
と言葉として出てくるから。やっぱり婆婆
に出てからしばらくは何を短歌に詠んでい
いのかわかんなくて困ったよ。材料があ
りすぎて取り留めがなくなってしまっ
て。

浦：そうしたきっかけから短歌の世界に入
っていったわけですが、あるいはアートの
世界で今からしたいことは？

伯：住んでる世界が違う人と会うと刺
激受けて面白い。アートの世界、音楽の
世界、デザインの世界、それと言葉のア
ートの世界、いろいろもうちょっとクロ
スオーバーしたいと思ってるのよ。

浦：クロスオーバーしてなにか見えてく
るものがある気がしますね。

伯：そもそも短歌って、短い歌のこと
なのよ。長歌もあるわけですけど、奈良
時代いろいろあって、短歌のみが和歌と
して残っていった。なんで和歌って
いうかという、漢詩に対して「やまと
うた」なのよね。で、短歌をやっ
てます俳句をやってますとするとお茶
やお花の先生と同じように思われがち
なんだけど、そっちは置いておいて、
お茶やお花の世界っていうのは家元
制が残って、近代以前の体制がその
まま残ってる。基本的に自己表現とい
うより型の踏襲、芸術というより芸
事なの。それに対して短歌の世界は、
江戸時代までは新古今和歌集が素晴
らしく、その型を踏襲するという形
だったんだけど、明治に入って短歌
革新

が起こる。明治維新は政治、経済だけ
ではなく、文化的な面においても大革
命だったのね、西洋から近代的な新
しい思想哲学が入ってきて、「個」と
いう概念が入ってきた。個人の内的
なパトスの発露として、新しい近代
的な文学として、生まれ変わった。
正岡子規がその改革の中心だった。
だからお茶やお花の世界と違って、
短歌の世界は近代以前と近代以後で
断絶があるんですよ。

浦：小説などの文学もそうですよね。

伯：そうそう。けれど、近代化によ
って失われたのが、音楽性なのよ。
元々朗詠するものが黙読するもの
に変化してしまった。

浦：なるほど！

伯：だから僕はその音楽性を取り戻
したい。自分が企画したコンサート
は必ず友達に頼んで、僕の短歌を歌
曲にしてもらおう。

浦：本来はそういうものだったわけ
ですよ。

伯：同志社の近くの冷泉さんとこ
なにかでは朗詠してるわけやね。
あそこで守ってるものを僕らの世
界では旧派和歌という。僕らは近代
の短歌だから、殆ど付き合いはな
いのね。けど残していかないかん
部分は残していかなくたって、

浦：変わっていつてるんですよ。

伯：話が関西弁に繋がるけど、言
葉は誰も今「ありをりはべりみま
そかり」でしゃべってるわけや
なく、変形するものだけど、地域
性が失われて全部集約していき
ってのはつまらないと思うのよ
ね。

浦：本当に、単純につまらないですよ
ね。

伯：大体1990年を境に漫画の世
界の言葉が変わってってる。それ
以降全国の言葉も変わってると
る。

浦：漫画の世界から？

伯：漫画はわかりやすいね、例え
ばドラえもののび太は決して「す
げえぞドラえもん」とは言わな
い。けれど90年代になると「ポ
ケモンゲットだぜ」になってく
わけよ。

浦：若者言葉みたいなの？

伯：同じ作者で見ても、高橋留美
子も「うる星やつら」「めぞん一
刻」までは標準語なの。「らん
ま」からすごいべらんめえ口調
になってる。鳥山明だと、「アラレ
ちゃん」は標準語ベースなんだ
けど、「悟空」からもものすごい
言葉が汚い。

浦：確かに。

伯：もっと古い漫画だと、「ど根
性ガエル」なんて相当な下町が舞
台の江戸っ子の話だけど、濃い
江戸っ子キャラを出すためのファ
クターとして寿司職人のウメさ
んが江戸弁を使っただけ、あと
は標準語。だからね、さっきの
話やけど、戦後日本は階級がな
くなった、それは素晴らしいこ
となんやけれど、ノブレスオブ
リージュで保たれてきたものは
全部なくなった。階級があっ
てこそ残ってきたもの、特に
言葉は全部低きに流れてしまっ
た。「あずまんが大王」って僕
好きなんやけど、あれだって本
当のお嬢さんのちよちゃん以
外、そこそこお嬢さんのはずの
他のキャラクターはみんなべ
らんめえ口調や。そこそこの階
級の女の子の言葉までそうな
ってくるぐらい、関東の方言は
戦後50年でひどくなってきた。
けれどほとんどの漫画は首都圏
の現代の若者が主人公で、それ
をリアルに描くと言葉が汚くな
っていったん

でしょ、と僕はそう思う。（冒頭
に戻る）



蹴上発電所

京都市営地下鉄蹴上駅から徒歩5分程のところ立派な煉瓦建築がある。一見京都らしくないこの建物は何なのか？実はこれ、明治に造られた日本初の営業用水力発電所「蹴上発電所」なのだ。明治の遷都で活気を失った京都に、琵琶湖疏水で運ばれた水で大規模な発電が行われた。作られた電気により産業が興り、街に明かりが灯り京都は産業都市として復興した。蹴上エリアには南禅寺水路閣を始め、多くの煉瓦建築・近代化遺産が遺されている。たまには寺社仏閣以外の京都観光を楽しませては如何だろうか？



前畑洋平 (NPO法人J-heritage) <http://j-heritage.org/>
産業遺産を巡る旅「ヘリテージツーリズム」を推進するNPO法人J-heritageの理事長を務めています。兵庫県を拠点とし、産業遺産プロデューサーとしてアートイベント等も手掛けています。書籍「ワンダー JAPAN」「廃墟という名の産業遺産」「廃線跡の記録1.2」「Meets 京都本2011」には執筆陣として参加。兵庫県鉱石の道推進協議会構成員・IWF300DOORS コーディネーターを務めるほか、近畿産業考古学会会員でもあります。

滋賀でHIV/AIDS啓発 project 「MyDear」がしたいッ



はじめましてこんにちは、音楽×HIV/AIDS啓発 project「My Dear」代表の宇野みどりです。みどり君は、地元滋賀がだいすきな大学4年生です。ある日、たまたま知ったHIV/AIDSに興味を持ち、少し調べると他人事ではないということを知りました。そして、少し怖くなりました。

日本ではHIV（ヒト免疫不全ウイルス）に1日に4人が感染しています。そのことを知ったみどり君は、これ以上感染が広がらないようにしなければ！と思いました。もしHIVに感染しても最初はなんともないように見えますが、ウイルスはあなたの体をどんどん弱くしていきます。そして、初めから体にあった病気への抵抗力が低くなった状態をAIDS（後天性免疫不全症候群）といいます。AIDSにならないためにはHIVの感染を予防することが大切です。だから、友だちが感染する前にちゃんと正しい知識をもってほしいと思ったのでした。

そこで！正しい知識を音楽と一緒に伝えたら楽しく知ってもらえる思い、滋賀のライブハウスで素敵な音楽とともに伝えていきます。そのイベントの2回目を12/1にしました。趣旨に賛同してくれたアーティ



京都新聞 10月1日付

ストは本当に素敵な音を届けてくれる人たちばかりで、「My Dear」projectはこういった音楽イベントをこれからも続けていきます。歌に乗せて送るメッセージ、素敵な空間にぜひ一度来てみてください♪

《MyDear project》twitter アカウント
@mydear_live



情報元：厚生労働省エイズ動向委員会
協力：wAds2011

編集後記

みなさまこんにちは、あるいはこんばんは、はじめまして浦田千紘と申します。はてさて記念すべき「とある」発足号をお届けすることができました。まずはお手にとってくださいている方、ありがとうございます。この「とある」は社会人学生ごちゃに混ざり合ったメディア団体「ゆるエッジ」が作っているフリーペーパーです。初回ですので、わたし達がなにをしたいのか？ということについてざっくりとお話したいと思います。

社会についての様々な問題はメディアで繰り返し唱えられ、おそらく日本人が現在、もしくは結構前から、個人的なものにする社会的なものにする、危機に瀕しているのは真実なのでしょう。人々の憤りややるせなさやひたひたと日本を覆い尽くそうとしています。それでも、まだ見つけてないものって案外たくさんあるんじゃないか、きっとあるよなあ、道と道の隙間に、あなたとわたしの真ん中に、はたまたまだ感じることもできないずっと遠くに、どこかにキラリと光る一粒が。言葉にするとはとく陳腐になりがちですが、ここでインタビューさせていただいた方々は、その小さな「なにか」を見つけることに細胞ぜんぶを注ぎ込んでいらっしゃるやとわたし達は思います。小さな何かを覆い隠すぐらいのモノがあちこちに溢れていますが、不思議

なことには人の瞳だけは幾千年相変わらず露出してしまっている、というごく当たり前の事実に意味があることだと思いたいです。だから一瞬このフリーペーパーから目を上げて、となりの人の瞳とか、もしくはここで紹介させていただいた方々の瞳とか、ぐりっと見てみるとどうでしょうか。なにか見つかりますかね。ないかな。あるかな。うふふ。最後に、なぜインタビューする際にこれらの質問を選んだのか、ということだけ。「目は口ほどに物を言う」とか申しますが、正直ただぐりっと人の目を見つめてもなんだかよくわかりません。なにを聞けばそのひとの中心部に近づくことができるのか、ということを考えて末の質問でした。少しでも伝わっていただければ幸いです。

さて、次号は春頃発行予定です。引き続き、わたし達が「おっ」と思う方々に、そしてその方々のおもしろさが伝わるようインタビューしていこうと思います。近頃は冬になって空気がしんと澄んできましたね。折口信夫先生によると、冬はエネルギーをためる季節。きつと要するにお鍋やたつやおせちや手のひらの温もりのことでしょうか。少しでも「とある」がみなさまを心の中からあたためることができよう、メンバー一同願っております。そして、これからも誠心誠意精進いたしますので、見守ってくださいと嬉しです。

2011年12月 浦田

メンバー募集しています。

『とある』を発刊している『ゆるエッジ』では現在、僕達の「人と人を繋ぐ」為の活動年3回発行予定のフリーペーパー『とある』及び月1回の定例場作り企画『サロン土手』などに興味をもってくださるメンバーを募集中！

広告募集しています。

また、そんな僕達の活動を応援してくれる個人、法人の皆様！是非、広告掲載を検討していただけると幸いです。

メンバー、広告募集の詳細に関するお問い合わせは『ゆるエッジ』事務局：田中まで
京都市左京区田中下柳町7-2 かげのね 202B
「オフィス四畳半」
eleven1974@hotmail.com
090-6248-9967

代書鳩 vol.2 フォーラム
未来を考える
2012.1月21日(土)+22日(日)
10:00 → 18:00
会場：大塚市役所5階ロビー
参加費_500円(税込) | 参加定員_100名(税込)

メンバー紹介	
<p>浦田千紘 / 編集長 大学生。わたくしは水と炭素と少々の存在感で生きております。(笹井宏之) t @chihiro115</p>	<p>宇野みどり / 京都支部長 23歳黒髪ぱっちょり系(←ココ重要)の女の子。 ●好きなコト●人との繋がり / 音楽 / ライブハウス遊び / HIV・AIDS 啓発 t @unomidori</p>
<p>moni 一応“大人女子”希望。今の時代だからこそ“大切なこと”を伝える人でありたい。 t @summer2ree</p>	<p>田中冬一郎 関西圏のオルタナティブプロジェクト専門家。 最近『アート』と『オカネ』の話“肴”に、毎日呑んでいます。 t @waon2007</p>
<p>今田勇太 神戸で映像を学びながら、ウェブデザインをしています。伝書鳩プロジェクトや淡路島アートセンターでアートのなこともしています。 t @yutalMD</p>	<p>塩見ちひろ イラスト作家 / 絵描き 関西大学卒業後、アートライフスタート。展示、企画、お教室、なんでも来い！のスタンスで絶賛活動中♪柴犬好き。肩もみが得意。 t @15chihiro</p>
<p>田面遙華 姐さんキャラ。筆を持つと一変、優美な“書を描く”女流書家。アート、デザイン、人を“書”でつなぐ。 t @youkatatz</p>	<p>サカモトマサヒロ DTP・WEBデザイナー。『とある』誌でも紙面とWebのデザイン担当。 t @masas_circle</p>
<p>加畑大地 大阪のIT系専門学校生。 “人の話を聴く事”と“笑顔”が大好き。様々な考え方を学びたい。 t @Kabata0411</p>	
<p>Haiji 京都市左京区在住のカメラ女子です。普段はデザイナー&イラストレーターです。ゆるゆる。 t @Haiji0123</p>	
<p>浅倉由紀恵 福井県出身。北海道暮らしを経て関西へ。写真撮影、編み物、パッチワーク、パン&お菓子づくり、レザークラフトなど、とことん「作る」ことに没頭するのが好き。いくら時間があっても足りない！が少々悩みのタネ。 t @yukiboh</p>	
<p>マスコットキャラのイチソン君</p>	